

## 2012年度 中央大学特定課題研究費 一研究報告書一

所属	文学部	身分	教授
氏名	松尾正人		
NAME	MASAHITO MATSUO		

## 1. 研究課題

(和文) 明治維新後の旧大名と士族

(英文) All the ci-devant Daimios and Samurai of meiji revolution

## 2. 研究期間

2年間

## 3. 研究の概要 (背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度)

(和文)

2012 (平成24) 年度の中央大学特定課題研究費では、研究課題を「明治維新後の旧大名と士族の研究」とし、最初に『山内家史料幕末維新』の第4編から第15編までの合計12冊を購入した。次に、同時期に活躍した維新の政治家の史料集として、『横井小楠傳』や伊藤博文の『滄波閣残筆』、野村靖の『追懐録』、『元帥公爵大山巖』を購入した。さらに、古書店 (岩神書房) を通じて、「旧出羽上山藩士日誌」を入手し、明治維新期の旧大名や士族の実態を分析する手がかりを得ることができた。

また、2012年12月には山口県文書館に出張し、明治3年に藩主となった毛利元徳をはじめとする長州藩関係者の動向を明らかにする史料を調査し、写真撮影を行った。山梨県立図書館等でも、鳥羽伏見戦争後に活躍した公家の高松実村とその側近小澤一仙の関係史料を調査し、維新の裏面の解明を可能にする史料を写真撮影することができた。

2013 (平成25) 年度は、保谷徹『戊辰戦争の史料学』などの最新の研究成果を入手すると共に、『徳川慶喜公伝資料編』(1~3) などの明治維新史関係の書籍を購入した。特に『東京城日誌』などの揃いの一括史料を購入することができ、研究および教育上の活用が容易になったことが喜ばしい。「官藩知藩事鑑」「太政官御職明鑑」「官位百敷草」「人民告諭大意」などの購入、関東の下館藩岡本家文書などの古文書類の入手は、幕末・明治期の小藩士族の動向の一端を知ることが可能になった。

今回の特定課題研究費では、幕末維新に関係した史料の調査、および関連の文献を購入することができ、研究・教育の充実に反映できた意義が大きい。私自身の研究面では、本年2月に岩波講座に拙論「戊辰戦争と廃藩置県」を掲載することができた。岩波出版社の日本歴史講座は20年おきに刊行され、同時期の最高水準の研究結果が掲載されるシリーズ本である。同講座に、中央大学特定課題研究費による調査成果を組み入れた拙論を掲載することができ、感謝している。

(英文)

This study is political current of Haihan-Chiken. A critical review of studies of the early modern emperor system.

4. おもな発表論文等 (予定を含む)

【学術論文】(著者名、論文題目、誌名、査読の有無、巻号、頁、発行年月)

(論文) 松尾正人 「戊辰戦争と廃藩置県」岩波講座日本歴史 第15巻・近現代

23～59頁、2014年2月19日発行

(研究ノート) 松尾正人「世田谷の代官屋敷が郷土資料館」『日本歴史』第788号

44～45頁、2014年1月発行

【学会発表】(発表者名、発表題目、学会名、開催地、開催年月)

松尾正人「多摩聖蹟記念館と近代日本」 多摩稲城退職校長会

多摩市永山市民会館 2014年11月30日開催

松尾正人「明治維新と徳川慶喜」徳川慶喜没後100年記念事業講演会

文京区立真砂中央図書館講堂、2014年12月8日開催

【図書】(著者名、出版社名、書名、刊行年)

なし

【その他】(知的財産権、ニュースリリース等)

なし